

成果の説明書

(氏名) 笠見 弥生	(学部) 経済学部
1 重要事項 【研究】 昨年度に引き続き、主として明末の文人凌濛初による短篇白話小説集『拍案驚奇』及び『二刻拍案驚奇』を対象とし、科研費「短篇白話小説『拍案驚奇』『二刻拍案驚奇』の編纂過程についての研究」(JSPS20K12948)の助成を受けて研究を進めた。主な進捗は以下の通りである。 (1) 凌濛初及び「二拍」に関する先行研究や関連資料の調査を、国立国会図書館、東京大学東洋文化研究所、東京大学文学部漢籍コーナー、静嘉堂文庫、台湾国家図書館、台湾故宫博物館及び附属図書館、関西大学附属図書館、広島大学文学部等で行った。 (2) 日本中国学会等の学会や研究会に参加し、凌濛初及び「二拍」に関連する分野の知見を深めた。 (3) 令和4年度に、『二刻拍案驚奇』卷三十「瘞遺骸王玉英配夫 償聘金韓秀才贖子(遺骸を瘞めて王玉英夫に配し 聘金を償いて韓秀才子を贖う)」について、凌濛初が何に基づいてこの作品を編んだのかを再検討し、「凌濛初「二拍」が基づいた書籍—『二刻拍案驚奇』卷三十の取材源について—」と題して投稿した論文が、『明清文学論集』編集委員会編『明清文学論集 その楽しさ その広がり』(東方書店、2024年3月)に掲載された。 (4) 『拍案驚奇』卷二「姚滴珠避羞惹羞 鄭月娥將錯就錯(姚滴珠は恥辱を避けて恥辱をひきよせ、鄭月娥はあやまちにあやまちを重ねる)」を中心に、凌濛初「二拍」と『亘史』の関係について検討した論文「凌濛初「二拍」と『亘史』—『拍案驚奇』卷二を中心に—」を『高崎経済大学論集』第66巻第4号に投稿した。 【教育】 「中国語Ⅰ～Ⅲ」「中国語文献講読Ⅰ」「中国語文献講読Ⅱ」「日本語リテラシーⅠ」「中国古典研究」「中国文化論」を担当した。特に以下の点に留意して行った。 (1) 中国語科目については、言語を学ぶことの楽しさを実感してもらえるよう授業設計を工夫した。 (2) 中国文化論、中国古典研究では、難しいものと敬遠されがちな中国の古典文献について、身近に感じてもらえるよう関連画像や動画を積極的に紹介した。	
2 その他の事項 2020年4月～ 日本中国学会広報委員会幹事 2023年3月～ 中国俗文学研究会会計補佐	
3 次年度以降の計画・抱負 【研究】 本年度まで凌濛初による短篇白話小説集「二拍」こと『拍案驚奇』及び『二刻拍案驚奇』を主たる対象として研究を進めてきたが、その受容や後世における他の短篇白話小説集に広げ、長篇白話小説をはじめとする他の作品群との影響関係についても検討していくため、「短篇白話小説の継承と展開に関する研究」という研究課題で新たに若手研究に応募し、採択された。短篇白話小説が中国文学史にどのように位置づけられるのか、広い視野で考えていきたい。 【教育】	

令和 6 年度は、第二外国語科目も初回オンデマンド授業の対象となった。授業の進捗に変更が生じると予想されるため、臨機応変に対応していきたい。

その他の授業についても、受講生から回収している感想を授業に取り入れる等、受講生により深く学んでもらえるよう努めたい。